チェルノブイリ通信

2010年3月20日
No. 79

■発　行　NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒811-3102　福岡県古賀市駅東2-6-26パステル館203号
TEL/FAX　092-944-3841　Email jimu@cher9.to
ホームページ　http://www.cher9.to/
■募金口座　郵便振替口座　01770-1-65328
e-バンク　ジャズ支店（支店番号201）（普）7017104

チェルノブイリ医療支援ネットワークは、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。
この活動を通して、日本とベラルーシの人々の心と心のつながりを深めます。

保養プログラムに参加し、交流を楽しむ子どもたち（コンフィデンスの活動より）

特集：ブレスト第９回検診帰国報告（2）

ベラルーシで初めての甲状腺内視鏡手術
ベラルーシにおける医療支援活動について
福祉工房「のぞみ21」スタッフ紹介
今さら聞けないチェルノブイリＱ＆Ａ
事務局日誌より主な活動報告
会員さん紹介コーナー
NGO「コンフィデンス」の紹介
正会員募集のお知らせ
2010年度通常総会報告
募金者のお名前とメッセージ

●特集● ブレスト第9回検診帰国報告(2)

ベラルーシで初めての甲状腺内視鏡手術

日本医科大学外科学講座 主任教授・内分泌外科部長
(内分泌・心臓血管・呼吸器外科部門)
清水一雄

2009年10月、ベラルーシ共和国ブレスト州の低汚染地区ピンスク市で生まれ育ったガリーナさん(31歳・女性)に対して、内視鏡を使った甲状腺摘出手術が行われました。チェルノブイリ被災地ではまだ行われていないもので、世界に先駆けた手術でした。手術を執刀された清水一雄医師(写真)からのご報告です。

◆現地医師の育成と手術現場の課題

私は1999年から、この検診活動に参加し、貴重な経験をさせていただいております。毎年現地を訪れるたびに感じることは、現地医師、パラメディカル（看護士、臨床検査技師など医師以外の医療従事者）の方々の勉学、診断手技習得に対する強い意欲と熱意、向上心です。実際、診断技術の向上は目覚しく、アルツール、ウラジミール医師が超一流の技術を習得し、彼らが様々な甲状腺ガン診断技術を現地で教育し、多数の専門医師が育ってまいりました。

一方、手術面では、現地で甲状腺手術を見学する機会が一度ありましたが、切開創は小児、若年女性を含め前頸（ぜんけい）部をU字形に切開する大きなもの（※写真参照）であり、美容上、無視できない問題を感じました。そのため、ここ3、4年は私が1998年、世界に先駆け開発し、甲状腺外科の分野では国内外に普及しつつある甲状腺内視鏡手術（VANS法）を現地へ導入し、普及させることを目的に、ミンスク市でシンポジウム、ウクライナの学会などで本術式とその整容上の利点を発表して来ました。

◆百聞は一見に如かず　まずは手術成功例を

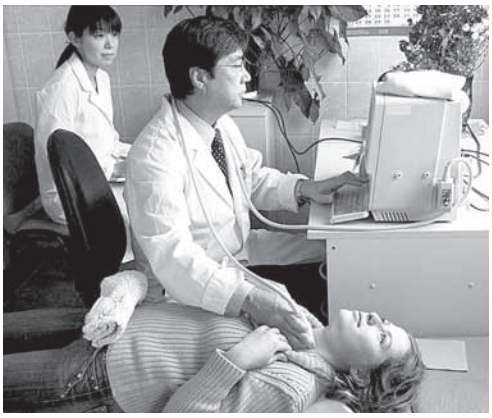
当初より本法に対し、若手医師は大変興味を抱いていることを実感しましたが、適切な手術室、手術機器類不足の問題、上層医師の理解など実現するには沢山の問題を感じておりました。

しかしこれらをクリアし実現に向かう絶好のチャンスが2年前に訪れたのです。それは、この年の現地検診で母親の胎内で被曝し、低汚染地区のピンスク市で生まれ育った20歳女性の直径7ミリの甲状腺微小ガンを発見したことに始まります。

「百聞は一見に如かず」。本症例を私の勤務する日本医科大学へ招待し、当科で内視鏡手術を行うことを計画しました。甲状腺手術でありながら前頸部に傷がなく、襟（えり）の開いた衣類でも隠せる前胸壁に小さく残る傷跡を現地の医師、患者、友人、一般の人に見てもらうことが、本術式を現地へ紹介し理解してもらう最も有効な手段と考えたからです。これには実質的に多額の費用を要することからこの難題をクリアするのは大きな問題でありました。

しかし、治療面での本学の温かいご理解とご支援、現地からの付き添いの医師と本人の往復費用、付き添いのアルツール医師の大学近辺での滞在費、患者本人の退院後の数日の滞在費から観光まで（浅草、表参道ヒルズ、ディズニーランド見物）、当科のみならず私の友人たち有志の心強い支援、またマスコミ各社の支援などで実現しました。

首元に手術痕の残る少女


06年の検診でアリョーシャのガンを発見

◆ベラルーシで初の手術実施へ

そして、今回10月の検診での最も大きな目的は、いよいよ念願であった現地で我々の内視鏡手術を行なうことでした。2008年の検診時、ブレスト州立病院の手術室を見学し、胆嚢（たんのう）の内視鏡手術が行われている事を確認し、機器類さえあれば甲状腺の内視鏡下手術ができると確信したからです。

2009年10月7日、多数例の中から選択された一例に対し、ベラルーシ本国で最初の内視鏡下甲状腺切除術を行いました。必要な機器類は本学から持参し、旭川医科大学の片山昭公医師と帯同した本学第5学年の田中裕一君が助手として手術を手伝ってくれました。

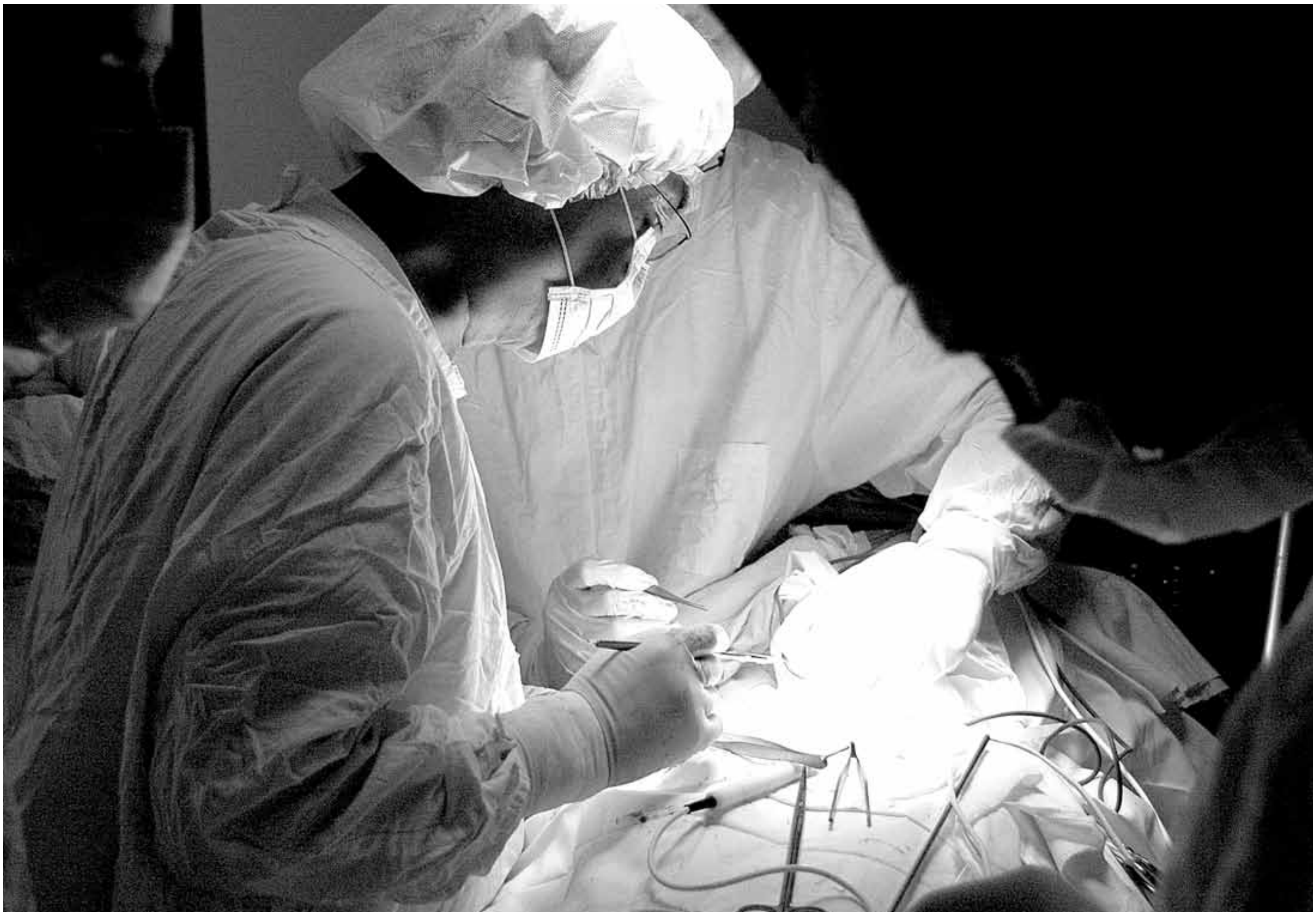
甲状腺内視鏡手術について

内視鏡補助下甲状腺手術
Video-assisted Neck Surgery

1998年に清水一雄医師が開発。
通常の手術の場合だと、どうしても首元にU字型の傷が残るが、この術法だと殆ど手術痕が残らない。そのため患者の精神的負担を軽減できる。また出血が少ない上、術後の快復も早いので、美容的のみならず、身体への負担も小さい確実性のある方法。

日本での内視鏡手術を終えたアリョーシャ（2007年3月）

翌2008年、術後経過を確認
前頸部の手術痕はほとんど見えない



執刀、メスをもち、手術が始まる

チェルノブイリ支援ネットワークのボランティア活動に参加し苦節11年、検診は、初期の頃の厳しい環境から始まり、環境自体、検診方法自体の改善、改良を経てその後本学学生、研修医の参加など協力の輪が広がり、やっとここまでたどり着いた喜びを感じました。

◆日本と異なる手術現場に苦戦

手術当日、執刀時間はわが国で経験しているような正確な時間でなく、患者さんの入室してくるであろう時間に手術室を訪れ、機器類のチェック、手術の段取りなどを頭の中でシュミレーションしながら、多数の関係者でごった返す手術室で患者を待ちました。患者の入室後全身麻酔がかかり、内視鏡手術に必要な周辺機器の設置、配置、患者の体位設定などに多くの時間を要し、執刀時間は予定から一時間近く遅れました。

手術は、いつもの雰囲気とまったく異なり、通訳の山田さんを通しても通じにくく、臨機応変に必要な機器類がなかなか出てこない。普段の冗談も言えないほどの、いつもと異なる手術室の雰囲気、飛び交うロシア語、実際指示していた手術機器類の不足など初めてのものばかりで苦戦を強いられた大変ストレスのある手術でした。一生懸命助手を勤めてくれた片山先生、本学第5学年でBSL実習（Bed Side learning、臨床実習）中の田中君が本当に頼もしく感じたものです。

モニターを見ながら手術は進む

◆手術は無事に成功

大変な思いをしながらも手術は無事終了しました。倍の手術時間を要しましたが前頚部に傷のない予定通りの手術を完遂しました。終了時手術室内で周囲から自然と拍手が起こりました。

手術をやり遂げた満足感と念願がかなった満足感で感無量でした。田中君は内分泌外科実習をベラルーシの手術室で経験し、検診を通して多数の甲状腺疾患を診察し、おそらく彼にとってかけがえのない経験をしたことでしょう。

終了後は手術控え室で手術着のままでささやかな慰労会が準備されていました。コニャックで乾杯し、サンドイッチやサラミ、ハムなどの軽食が大変おいしかったです。手術室で一生懸命機械出し助手を担当した、手術メンバーの大変

美人のクリスチーナ看護師も現地外科医と同席し、成功の喜びを分かち合いました。

◆今後に向けて

手術翌日の病室訪問で、ガリーナさんは笑顔で我々を迎えてくれました。「スパシーバ（ありがとう）」という声はかすれておらず、ガウンに隠された鎖骨下前胸壁の小切開創もきれいで合併症がないことを確認し大変に安堵しました。

２００７年の現地患者のガン症例（アリョーシャ）に対するわが国で行われた内視鏡手術、今回のベラルーシ本国での手術とも、患者はブレスト州ピンスクという低汚染地区出身であり手術もブレスト市にある州立病院でありました。

私は、その二人の創を見た現地の人々、患者と手術を見た医療関係者の確かな前向きの反応、姿勢、そして手応えを感じました。また在ベラルーシ日本大使館、外務省東欧支部、わが国の報道各社からの注目と支援を受け、２０１０年は首都ミンスク市での複数例の甲状腺内視鏡手術を計画しております。

カリキュラムの課外活動の一貫として本学からは、今まで何人かの学生、研修医がこの活動に参加し、海外での医療経験、国際交流を通し貴重な経験をしていると思っております。この経験を通し、早くから国際感覚を身につけた豊かな人間性のある質の高い医師が育っていく事も願っているところです。

手術を受けたガリーナさんと一緒に記念撮影

手術翌日の訪問にて、手術の傷跡を確認

ベラルーシ初となる甲状腺内視鏡手術では、現地の医療関係者もスタッフとして手術の成功をサポートした

無事手術を終え、州立病院を後にする検診団一行

問診票を手に検診内容を検討する清水先生と田中さん

● ブレスト第9回検診帰国報告（2）●

ベラルーシ共和国における医療支援活動について

日本医科大学付属病院病理部
臨床検査技師　渡　會　泰　彦

渡會臨床検査技師は、2003年よりブレスト州での甲状腺ガン検診に医療チームの一員として参加され、様々な面から活動をサポートして下さっています。
昨年10月、5回目となったブレスト州での検診を終え、これまでの検診結果やその成果、また日本医科大学での取り組みについてご報告をいただきました。

◆国全体で不足する専門医師

２００３年〜２００９年までの７年間、ベラルーシ共和国ブレスト州の甲状腺ガン検診に参加し、計３０９名の住民に対して超音波と細胞診による精密検査を行いました。その結果36名にガンが見つかり、その割合は12％と高率でした（表1）。

ガンが見つかった患者さんはその後首都ミンスクのガン専門病院にて手術を含めた治療を受けています。この７年間の検診を通じ、現地医師は多くのことを我々から学びとり、急速な検査技術の進歩が成し遂げられました。

年	医師	細胞検査士	医学生	検診人数	甲状腺がん	内視鏡手術
2003	江本 高津	渡會	高橋	85 名	8 名 (9%)	
2004	清水	渡會	賀来	24 名	3 名 (13%)	
2005	清水	村瀬	高橋 中村	31 名	2 名 (6%)	
2006	清水 高橋	渡會		50 名	7 名 (14%)	
2007		渡會	鈴木 瀧音	38 名	6 名 (16%)	1 名 （日医大）
2008	清水 篠塚	村瀬	大内	52 名	7 名 (13%)	
2009	清水	渡會	田中	29 名	3 名 (10%)	1 名 （ブレスト）
計				309 名	36 名 (12%)	2 名

表 1　2003 年〜 2009 年甲状腺がん検診結果（名前は日本医科大関係者のみ）

特記すべきは、現地医師の超音波画像の解読能力と細胞診穿刺技術の向上で、これらは日本の医師の技術レベルをはるかに超えております。２００３年〜２００４年の検診では単なる見学者であった彼らが、今では日本の医師・学生に教えるまでに成長しました。今後は検診の最終段階である細胞診断ができる医師を増やすことにあります。

１９９７年のストーリン地区の検診から参加している、現ブレスト州立内分泌診療所所長であるアルツール医師夫妻は、すでに日本の細胞検査士・医師レベルの細胞診断能力を身につけており、年間１００名の甲状腺ガンを発見し、ガン専門病院へと紹介しております。しかし首都ミンスクのガン専門病院でも１名しか細胞診専門の医師はおらず、約１千万人の人口をもつ国全体としてはとても足りない状況にあります。

◆次のステップへ
〜傷跡の少ない手術法の伝達〜

ベラルーシでは首元に大きな傷跡を残す古い方法により手術が行われており、特に女性には美容的にも問題があります。そこで、２００６年の検診で発見された20歳の女性患者（胎内被曝の影響と考えられる甲状腺ガン患者）を２００７年に日本に招き、清水一雄教授開発の甲状腺内視鏡手術が行われました。現在経過良好で傷痕もまったくわからない状態です（3頁参照）。

さらに、今年は現地の病院にて31歳女性の良性甲状腺腫の手術が現地医

2003〜2004年の検診風景。検診当初、現地医療スタッフは見学者であった

どこまでも続く、ベラルーシの広大な台地と、ブレスト要塞の教会での結婚式（検診団派遣の1コマから）

師の見守る中行われ、患者の身体的負担が少なく傷跡が残らない手術法に対して大きな反響があり、現地での内視鏡手術普及の第一歩となりました。

◆今後の支援について

被曝20年を過ぎ、今まで支援していた多くの国や団体が活動を中止しております。しかし、放射能の影響は今もなお消えてはいませんし、世代を超えて継承される可能性もあります。またチェルノブイリ事故後に発生した小児甲状腺ガンの６割に遺伝子異常があるとの報告もあり、長期の観察が必要になります。

その証拠として１９９５年からは小児甲状腺ガンに代わり、これから国を支えていくべき青年期の甲状腺ガンが急増しており、ベラルーシ社会に暗い影を落としています。これは当時予想もできなかった新たな放射能の脅威ですが、その脅威を少しでも私たちの医療支援により回避することができるように活動を行う必要があると考えます。

また、国際支援にはいろいろな形がありますが、食糧が不足している国に食糧を差し出してもその効果は一時的ですが、農業指導などにより永続する食糧問題の解決への成果を上げている事例があることは報道などで知ることができます。

チェルノブイリ医療支援ネットワークは当初から「現地医師による検診・治療」のための人づくりを目標としてきました。その支援の種を蒔き続けた結果、人口約１５０万人のブレスト州における検診スタイルの完成という実を結んだと言えるでしょう。

このスタイルが人口１千万人のベラルーシ国内に広がることで花が咲き、次のベラルーシ生まれの種が撒かれ受け継がれるまで私たちの支援が必要であると思います。

甲状腺内視鏡手術（2009年10月）

2008、2009年の検診風景（日本との合同検診の積み重ねにより、優れた医療専門家が育ちつつある）

福祉工房「のぞみ21」スタッフの紹介

【第2回】

ベラルーシ南部にあるゴメリ市の福祉工房「のぞみ21」では、チェルノブイリ原発事故の被災者や、障がいを持つ青年たちがそれぞれの体調に合わせて、刺しゅうや縫製、木工などの仕事に取り組んでいます。チェルノブイリ医療支援ネットワークでは、「のぞみ21」の商品を日本でも紹介することで、工房の運営や活動を支援しています。

スタリマホーバ・ターニャさん
Стальмахова Таня
1981年9月29日生まれ(28歳)

母親と暮らしていて、母の年金と私の身体障害者保障で生活しています。出産後、脳血管障害の後遺症で運動失調があり、一般の正規の職業としては働いていません。工房では簡単な刺しゅうをしています。自由時間には、いろいろな図柄の刺しゅうをするのが好きです。

ターニャが手にしているのは赤や青の麻布に伝統的模様の刺しゅうを刺した眼鏡ケース（¥500）。

ラシキナ・レーナさん
Лашкина Лена
1979年7月20日生まれ(30歳)

甲状腺ガン・身体障害者3級です。
父親と、半年前に結婚した夫のウラジーミルと一緒に暮らしています。父は足に障害があり、歩行困難です。私の本職は裁縫師ですが、身体障害のため、一般の正規の職業としては働いていません。工房では裁縫、麻製品一般を扱っています。

レーナがひざに広げているのは、赤の麻布にカラフルな縁取りを縫い付けた食卓クロスセット（参考商品）。

ノビコフ・レーナさん
Новикова Лена
1977年5月28日生まれ(32歳)

レーナが手に広げているのは、幸福のシンボルの白い鳩とピンクのバラを刺した、ベッドカバーにも使える大きなクロス（参考商品）。

甲状腺ガン・身体障害者3級です。夫のヒョードルと、健康上の問題を抱えた子どもと暮らしています。本職は刺しゅう師ですが、仕事がありません。工房では刺しゅうの図柄の作成、複雑な裁縫や刺しゅうを担当しています。2001年に工房経営者のナターシャさんたちと一緒に日本に行きました。

工房運営カンパにご協力ください！

チェルノブイリ医療支援ネットワークでは、「のぞみ21」雑貨の購入の他、工房運営のためのカンパも届けています。物価の上昇や、他国からの支援撤退などで工房の運営は年々厳しくなり、日本の皆様からの支援が大きな力になっています。商品購入を通じてのスタッフの社会的・経済的自立支援、また工房の運営継続のためのカンパにご協力をよろしくお願いいたします。

（※振込用紙の「のぞみ21カンパ」欄にチェックを入れてください）

（注）核分裂を抑制する棒のこと。急激に核分裂が起こると核爆発を起こしてしまうため、原発では制御棒を用いて出力をコントロールしている。

事務局日誌より

主な活動報告

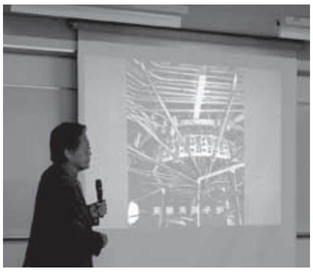
日々の活動の様子は、HPの「事務局スタッフブログ」でも紹介していますます。
http://www.cher9.to/

◆11月21日　マトリョーシカ絵付け会

集中しています

古賀事務所にてマトリョーシカ絵付けワークショップを開催しました。工房「のぞみ21」のマトリョーシカを見本に、いざ絵付けスタート!
…あっという間に3時間が過ぎ、絵付けの大変さをしみじみと感じました。
絵付け会は今年も開催予定です。どうぞお楽しみに!
無地マトリョーシカのご注文は事務局まで!

◆11月28日　ベラルーシ調査団・帰国報告会



報告をする山田さん

昨年10月にベラルーシを訪問した調査団による報告会を福岡市にて開催しました。今回初めての参加となったスタッフの川原より全体的な報告をし、その後、医療通訳の山田英雄さんより、カザフスタンでの核被害のお話なども交え、ブレスト市での甲状腺内視鏡手術や検診についての報告をしていただきました。

◆12月5日、6日　KOGA手づくりアートフェア

マトリョーシカをたくさん展示♪

古賀市にて、福岡県内の手作り・モノ作りのプロが集合し、作品の展示・販売、手づくり体験など内容盛り沢山の参加型イベントが開催されました。「手づくり」ということで、工房「のぞみ21」雑貨の販売を中心に、ブースを出展しました。
いつもイベントで顔を合わせるNGOブースと違い、プロはやはりディスプレイがうまいなぁ…と勉強になりました。

◆12月12日　ベラルーシ料理を作って食べる会

古賀市中央公民館にて、料理会を開催しました。今回のメニューは恒例となったボルシチ、ドラニキ（ジャガイモのパンケーキ）、フボーラスト（焼き菓子）の3品。親子での参加、リピーターさんもあり、楽しく、わいわいと料理ができました。
レシピはHPでも公開中。次回開催をどうぞお楽しみに♪

http://www.cher9.to/mingei/ryori.html

◆1月21日　IEO国際交流団体・新年会

東京でのIEO国際交流団体（以下IEO）の新年会に参加しました。同会にはベラルーシ大使館の臨時大使も出席され、日本医科大学の清水先生や渡會先生などからベラルーシでの活動について報告があり、またスタッフの河上も団体紹介をさせて頂きました。
IEOより新年会の収益金の一部を寄付していただきました。

募集してます

団体設立20周年にむけてのメッセージをお寄せください!

チェルノブイリ医療支援ネットワークは、今年6月で設立20周年を迎えます。それを記念して団体HPにメッセージコーナーを設け、皆さまからいただいたメッセージを掲載させていただきたいと考えています。活動に対するコメントや現地へのメッセージなど、何でも構いません。どしどしお寄せください!

詳細はこちらです。皆さまからのメッセージをお待ちしています♪

FAXで　メールで　ハガキで　振込用紙に　HPから

ファックス、お手紙、郵便振替用紙のメッセージ欄のほか、Eメールやホームページなどインターネットでも受付けています。

●締切・・・2010年4月26日まで

●注意事項・・・
100〜150字程度。お名前の掲載可否について、「本名／ペンネーム／匿名希望」のいずれかをお書き添え下さい。

FAX 092-944-3841　Eメール jimu@cher9.to
ホームページ　http://www.cher9.to/　※住所は表紙参照

私も応援しています！

会員さん紹介コーナー

Vol.7

このコーナーでは、チェルノブイリをともにお支えいただいている会員の皆さまより、活動への思いや現地へのメッセージをお聞かせいただきます。

取材／小山

本日の会員さん

後藤 絵里さん
＜大分県竹田市＞

「忘れないでほしい」というメッセージを子どもたちに伝えたい

私はチェルノブイリ医療支援ネットワーク（以下ＣＭＮ）のことを、理事の小山浩一先生を通じて知りました。先生と同じ日田市の小学校に勤務していた頃から、「いのちかがやけ」という思いで子どもたちに向き合う先生の姿に多くのことを学んできました。

私たちの命を脅かすもの、脅かしてきたものに対して、まずは自分の目で真実を確かめる。それらを「出来事」として捉えず、そこに生きている人、生きてきた人の思いに寄り添うことで知り得た多くの真実や出会った人々について、先生はいつも多くの写真を用いて、私たち仲間に語ってくれています。

またＣＭＮの取り組みについても、通信を読むたびに多くの方の熱い思いや、活動の内容の大きさに驚嘆するばかりで、ＣＭＮの存在こそが私にも力を与えてくれています。

私が今勤務している地域の学校では、年に2回の公害・環境教育の取り組みを行っています。環境問題が山積する中、「いのちの大切さを理解できる子・いろいろな立場から事実をみることができる子・環境問題を自分の問題として考え、行動していくことができる子」、そんな子どもたちの姿を願って取り組んでいます。具体的には「ミナマタ」と「原発」についての学習を毎年行っています。

昨年度、今年度の授業では、ＣＭＮからパネルをお借りしました。授業では、事故に遭った子どもたちが描いた絵を見て、どんな気持ちが表れているのか想像することから始めました。病気への恐怖、家に住めない苦しみなどに気づいた後、事故当時の様子をまとめていきました。

パネルを用いて現在の様子を説明していくと、子どもたちは食い入るように見つめていました。強制移住によって「地図から消えた村」や、開園前に事故が起きたために誰も乗ることのなかった「プリピャチの観覧車」など、写真を通して見る原発事故の悲惨さは想像以上のものでした。

家族や友だちと楽しく暮らしていた大切な自分の町が、突然の『ある日』を境に住めなくなったら…という事実を、子どもたちは自分のことと重ね合わせて受け止めていました。

その後、福祉工房「のぞみ21」のナターシャさんや孫のナターリャちゃんのことを紹介し、終わらない被害や目に見えない恐怖に今も苦しんでいる人々の気持ちを、子どもたちに考えてもらいました。

また生後3日で被曝し、甲状腺ガンを患った女性のことを紹介しました。この女性が甲状腺の手術をして、今は結婚して子どもを生んでいることを伝えると、子どもたちは一様に安心した表情となりました。早く病気を発見して、早く適切な治療を行えば命が助かる、その手伝いをしているのがＣＭＮという日本の団体であるということを、検診風景の写真などで説明するととても驚き、大切なことをボランティアや募金などのみんなのあたたかい気持ちでおこなっているということを、子どもなりにうれしく感じているようでした。

授業の最後には、事故自体とても大きな事故だが、更に被害が拡大した理由を知り、国益を重視した国の姿勢に憤りを感じていました。

事故から23年以上経ち、昔のことと捉えがちですが、自分たちと同年代の子どもたちやベラルーシの人々の置かれている現状を伝えることによって、今に続く苦しみがあることを子どもたちは理解することができました。

また事故を風化させず、同じ苦しみを生み出さないためにどうしていけばよいのか、みんなで考えました。ＣＭＮ、そして現地の人の声として「忘れないで欲しい」というメッセージを伝えると、子どもたちの中から「ぼくたちが忘れても苦しみはなくならない」「忘れてしまったらまた同じことが起きるかもしれない」という意見が出され、忘れたらこれから自分たちができることも考えられなくなるということに気づくことができました。

「忘れないでほしい」というメッセージ。このメッセージを私自身がしっかり受け止め、自分のできることを探していかなければと思っています。まずは目の前にいる子どもたちに「伝えること」。学校や職場などでＣＭＮの活動を知ってもらうことならできるかな、と少しずつですが頑張っています。微力ですが、ベラルーシの人々の思い、そしてＣＭＮの皆さんの思いをつなげていける一人になれるよう、今後も私自身つながっていこうと思います。（談）

NGO「コンフィデンス」の紹介ページができました！

教育プログラムの一場面

ベラルーシのNGO「コンフィデンス」は首都ミンスクを拠点に、チェルノブイリ原発事故で被災した母子への支援活動に取り組んでいます。

チェルノブイリ医療支援ネットワークでは2001年から「コンフィデンス」と協力体制をとり、年に１～２回、ベラルーシを訪問した際に、会員の皆さまからお寄せいただいたカンパを届けています。

団体ウェブサイトに「コンフィデンス」の紹介ページを作成しました。インターネットをご利用されない方々へも「コンフィデンス」の活動の様子を知っていただこうと思い、誌面でもその一部を紹介させていただきます。

http://www.cher9.to/confidence.html

プロジェクト詳細（一部）

Health education:

事故後の世代のベラルーシの子どもたちや青少年が健康を保つための支援プロジェクト。
環境教育、健康的な生活の育成、健康的な生活を送るための実際的なスキルトレーニングを指針とし、様々なプログラムを実施する。
具体的には、環境教育や、正しい食生活、心のバランスを保つこと、活動と休養のバランス、運動や体操、ヨガ、マッサージなど健康に役立つスキルの指導など。
毎年100人の子どもたちが受講している。

★「コンフィデンス」代表のイリーナさんへのインタビュー記事を「チェルノブイリ通信」72～74号に掲載しています。

Chernobyl Victims:

＊物資の援助
衣類、靴、ベッド用品、ベッド、自転車、ミシン、乳母車、乳児用および成人用オムツ、食料品などの実用品の援助。
毎年、被害を受け貧困に苦しむベラルーシの約1,500の家族が支援を受けている。

＊保養プログラム
ヨーロッパの非汚染地域での保養プログラム。病気の子どもたちや自分たちで費用をまかなうことのできない家庭の子どもたちを対象とする。
毎年300－400人の子どもが参加し、ホームステイまたは下宿生活で２－４週間過ごす。

活動風景　～2009年夏、スイスでの保養プラグラム～

正会員募集のお知らせ

▼法人の正会員を募集しています

チェルノブイリ医療支援ネットワークでは、活動の運営をともにお支え下さる正会員を募集しています。正会員は法人の社員となり、社員総会（※）での議決権を有し、直接会の運営に関わっていただけます。

個人でも、また団体でのご入会も可能です。入会金無料・年会費3千円となっております。

入会をご希望の方は同封の郵便振替用紙の「正会員・年会費」項目にチェックの上、会費3千円をお振込下さいますようお願いいたします。

（※）年に一度の通常総会及び臨時総会。
正会員は原則として出席義務（委任も可）あり。

▼入会手続きは簡単です

入会手続きにつきましては、お振込いただいた郵便振替用紙をもって入会の申込書にかえさせていただきます。必ずお名前・ご連絡先のご記入をお願いいたします。

▼個人情報の取扱いについて

毎年、社員（＝正会員）のうち10名以上の名簿を法人の所轄庁に提出することになっています。

お名前・ご住所等の公開を希望されない方は、郵便振替用紙の「氏名掲載について」の部分で「不可」をお選びください。

またお寄せ頂いた個人情報は事務局で責任を持って管理させていただきます。

下図のご記入例をご参照下さい！

【郵便振替用紙・入会申込の記入例】

通信欄・ご依頼人

いつもありがとうございます。
□ 活動支援金　　¥3,000×　　=¥　　　□ のぞみ21カンパ
（3千円未満でも受付けます）　　　□ 雪だるま3号カンパ
☑ 正会員・年会費　¥3,000
※お振込いただいた受領証をもって領収証にかえさせて頂きます。
＊氏名掲載について　可　・　不可（←必ずどちらかに○）
＊メッセージをどうぞ…

ここにチェックを。

ご住所、お名前の公開を希望されない場合は「不可」に○を。
（所轄庁HPでの社員名簿の閲覧画面には氏名のみ表示されます。）

正会員になったら・・・

毎年１～２回、ベラルーシの人々（のぞみ21スタッフ、検診スタッフなど）からのお手紙をお届けします！
その他、支援活動や現地の様子を身近に感じてもらえるような特典を色々と考え中です。

チェルノブイリ医療支援ネットワークでは、募金をして下さった方、商品購入を通じて活動を支援して下さった方などを法人の賛助会員とみなし、会報「チェルノブイリ通信」をお送りしています。
賛助会員は入会金・年会費は無料です。詳しくは同封の定款をご覧いただくか事務局までお問合わせください。

理事長交代のごあいさつ

理事長が交代しました。
新旧理事長よりご挨拶申し上げます。

退任のご挨拶
寺嶋　悠

この度、理事長を退任することになりました。在任中は会員の皆様をはじめ、多くの方々にお世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。今後は副理事長として、引き続き支援活動の運営に関わっていきたいと思います。

事故発生から20年以上が経過し、人々の関心も薄れ、活動の継続もますます困難な状況ではありますが、今後もチェルノブイリ被災者への医療支援を大きな軸として、国内での広報活動にも力を入れ、さらにより良い活動を目指し、必要とされる支援を届けてまいりたいと思います。今後とも変わらぬお力添えを心よりお願い申し上げます。

着任のご挨拶
河上　雅夫

ちょうど20年前、九州各地の仲間とともに「チェルノブイリ支援運動・九州」の結成に関わり、事務局の一人として活動してきました。転勤で九州を離れてからは遠くからの参加となりましたが、今回地元復帰４年目で理事長を引き受けることになりました。

今年でブレスト検診も10回目となり、吸引穿刺の技術習得から内視鏡手術と大きくレベルアップしてきましたが、それを支える国内の支援体制は十分とはいえません。まずは今後に向けて安定した支援ができる体制を築くことに力を入れたいと思います。よろしくお願いします。

2010年度総会報告

◆日時：2010年2月20日(土)
18：15～19：00
◆場所：古賀市中央公民館
研修棟107号室

チェルノブイリ医療支援ネットワーク事務所を置く古賀市にて2010年度通常総会を開催し、昨年度の事業、収支決算報告及び、今年度の事業計画、収支予算についての協議・承認が行われました。スペースの都合上、簡単な報告となりましたが、ぜひご一読いただき、ご不明な点がございましたらお気軽に事務局までご連絡ください。また詳細な報告は団体ウェブサイトにも掲載しています。

→　http://www.cher9.to/kako_katudo.html

2009年度事業報告

【海外事業】

●ブレスト第9回検診団・第28次調査団の派遣（2009年10月4日～2009年10月13日）
ブレスト市での甲状腺ガン検診、乳ガン講義の実施、清水一雄医師による内視鏡手術、関係者への取材等を実施。
（詳細は「チェルノブイリ通信」78号に記載）

●現地福祉工房「のぞみ21」支援
商品仕入（年2回）、国内での販売、スタッフへの取材を実施。寄付金＄2700（08年9月～09年8月分の「のぞみ21カンパ」）を贈呈。

●現地NGO「コンフィデンス」支援
関係者への取材を実施。活動運営カンパ＄1500（運営費＄900+保養プログラム経費＄600）を贈呈。

【国内事業】

●報告会、イベント等の開催
●講師派遣
●写真パネル展
●イベント参加
●会報誌「チェルノブイリ通信」の発行
●物品の販売（支援コーヒー・紅茶、書籍等）
●情報発信（メルマガ発行等）
●現地との交流促進
●その他
・原稿執筆、取材受入
・ボランティア受入（のべ26名）
・理事会の開催（毎月1回）
・臨時総会の開催（3月28日）
→福岡市内へ法人の従たる事務所を設置
・助成金の申請
・セミナー等への参加、など

2010年度事業計画

【海外事業】

●ブレスト第10回検診団・第29次調査団の派遣
・甲状腺ガン検診、甲状腺内視鏡手術の実施
・支援金、支援物資の贈呈
・プロジェクト評価

●福祉工房「のぞみ21」支援
・工房運営カンパの呼びかけ
・雑貨の仕入及び国内での紹介・販売

●NGO「コンフィデンス」支援
・活動や関係者のインタビュー等を会報やウェブページで紹介し、引き続き支援を行う

【国内事業】

●報告会、イベント等の開催
・マトリョーシカ絵付け会
・ヘアサロン・スネガビーク2010
・ベラルーシ訪問団による帰国報告会
・ベラルーシ料理を作って食べる会

●団体設立20周年記念事業の開催

●会報誌「チェルノブイリ通信」の発行
・年度内に4回（3、6、9、12月）発行
・引き続きPDF配信への移行も呼びかける

●その他
・支援コーヒー・紅茶の販売
・チェルノブイリ関連書籍等の販売
・情報発信
・講師派遣、パネル貸出
・イベント参加
・会員拡大、資金調達
・ボランティアの募集・受入
・会議の開催

秋のベラルーシ訪問。左よりNGO「コンフィデンス」関係者の皆さん。現地スタッフのリューダと大きくなったアンナちゃん。のぞみ21のナターシャさんとスタッフのアラーさん一家。

3月に来日したアルツール医師と福岡市内の神社を見学（左）。計3回実施のベラルーシ料理会では親子での参加も（中・右）

2009年度収支決算書（09.1月1日～09.12月31日）及び 2010年度収支予算書（10.1月1日～10.12月31日）

（単位：円）

科　目	09年度決算	10年度予算
経常収入の部		
会費・入会金収入	0	150,000
事業収入	1,854,821	1,425,000
補助金・助成金収入	234,173	300,000
寄付金収入		
活動支援金	10,573,872	6,500,000
のぞみ21カンパ	255,300	250,000
雪だるま3号カンパ	251,000	200,000
雑収入	1,152	2,000
経常収入合計	13,170,318	8,827,000
経常支出の部		
事業費		
検診・調査・ｽﾀﾂｱ	2,405,835	2,750,000
のぞみ21支援	583,070	600,000
会報発行	1,471,674	1,600,000
報告会・講演会等開催	171,838	50,000
イベント参加	171,842	160,000
コーヒー販売	606,899	450,000
その他（※1）	8,015	15,000
事業費計	5,419,173	5,625,000
管理費		
給料手当	3,502,625	2,800,000
法定福利費	274,949	250,000
旅費交通費	406,420	200,000
通信運搬費	139,630	150,000
消耗什器備品費	152,250	0
消耗品費	117,201	100,000
水道光熱費	63,947	100,000
支払地代家賃	512,167	504,000
支払手数料	201,304	150,000
法人住民税及び事業税	106,000	135,000
その他（※2）	115,745	165,000
雑費	90,809	10,000
雑損失	4,875	2,000
予備費		86,000
管理費計	5,687,922	4,652,000
経常支出合計	11,107,095	10,277,000
経常収支差額	2,063,223	-1,450,000
当期収支差額	2,063,223	-1,450,000
前期繰越収支差額	5,070,961	7,134,184
次期繰越収支差額	7,134,184	5,684,184

※（1）講師派遣・パネル展事業、インターネット事業、書籍販売事業
※（2）支払報酬、会議費、交際費、修繕費、新聞図書費、研修費、印刷製本費、諸会費、租税公課、為替差損益

●現在の会員数（※2月20日現在）
正会員　25名（個人）
賛助会員　1871名（個人／団体）

●2010年度会務
個人・団体ともに次の通り。
正会員　入会金0円、年会費3000円
賛助会員　入会金0円、年会費　0円

●2010年度運営体制
理事長　河上雅夫
副理事長　寺嶋悠
理事　小山浩一、谷口恵、吉本美貴、和田幸策、川原秀之
監事　津島朋憲
事務局　川原秀之、三島さとこ

マトリョーシカ絵付け会、刺しゅうカフェなど、事務所もイベント会場や雑貨の直売所として活躍しました。

たくさんのご支援をありがとうございます。

（順不同・敬称略）

相川美智子　浅原望樹　石川睦枝　石橋恵美子　井上信子　井上洋子　井上礼子　井上春海　岩川靖子　岩見文夫　岩森久美　上野修　瓜生ハツキ　英空寺　江越知佳子　NPO法人じゃがいものおうち　NPO法人士といのち　榎本みつ枝　大木正人　大園広子　太田千賀子　大谷正穂　岡田薫　緒方君江　緒方俊一郎　沖・渡辺・中西　小楠小学校　小野直子　片岡直樹　加藤美千代　金森則子　上條千栄　亀井廣子　河上しげみ　河口友子　川口房子　川原美穂　菊池順子　北野溥　木村みさ子　草場規容子　工藤光代　久保山彬子　汲地康子　蔵本一郎　グリーンコープ生活協同組合おおいた　小島輝巳　坂田貴子　坂元サチ子　桜木秩子　佐々木しのぶ・雪乃　佐藤久美　佐藤啓子　サトウ矯正歯科クリニック　里見照子　佐村りつこ　澤田和子　島田美恵子　下田豊文　関根敏子　善光寺・青木敬子　高田正世　高山幸子　武田ひとみ　立木敏枝　田中直子　田中啓　谷村禎一　筑豊互助会　チャリティーコンサート実行委員会　鶴田光子　得能美樹　外山三枝　丸山康子　重留明美　長友明美　種カフェ　山本裕子　柳弥生　富永勤子　冨永峰子　友成眞子　中島幸代　仲宗根明美　長田栄美子　中野敦子　長棟かおる　中村順子　中森和恵　柳楽翼　南條由美子　西嶋香穂子　西村富明　早川もと子　林和泉　林由実子　林田洋子　自然に添う会野穂々ン・原由香里　引田良子　久田文子　平田美恵子　平田弘子　平山淳子（特活）IEO国際交流団体（特活）広河隆一非核・平和写真展開催を支援する会　廣政貴子　福迫ひとみ・愛梨　船越あつこ　ぽこあぽこ　堀江誠子　堀苑美代子　本田美穂子　マインド・ネットワーク　前田祐子　桝田千絵　松尾博文　松尾由美　松本みね子　松本素子　水落靖子　三宅哲子　宮田香子　宮本京子　宮本美智子　宮脇正　村上和代　村山敬子　森満子　森美津子　森悠子　森田正則・森田敦子　守山美佐子　柳元秀昭　矢野蔦子　藪陽子　山浦真弓　山岡祥子　山崎末吉　山下明美　山田美佐子　山中薫　山本里美　山本潤子　山本裕子　横川律子　吉川貴子　吉村啓　吉元京子　力丸邦子　和気由美　和田伸夫　和田茉莉恵　渡辺稲子

合　計　5，770，637円

（活動支援金　5，516，637円
のぞみ21カンパ　98，500円
雪だるま3号カンパ　155，500円）

［都道府県別］
【東京都】7名【神奈川県】4名【千葉県】1名【山梨県】1名【長野県】2名【三重県】2名【大阪府】3名【兵庫県】1名【島根県】4名【鳥取県】1名【岡山県】4名【広島県】8名【山口県】6名【高知県】1名【福岡県】49名【長崎県】12名【熊本県】13名【大分県】12名【宮崎県】5名【鹿児島県】8名

●マンスリーサポーターの皆さん

相川靖　相羽美香子　麻生絹代　石本祥二郎　礒道綾子　一瀬和美　稲田照子　岩口香織　上田英子　植田清子　内野希和美　延壽富美　大麻卓子　大久保仲子　大崎知恵　大中百合　大場満　片岡八重子　金山涼子　上村匠子　紙森優子　河上雅夫　川﨑清美　川尻愛子　木村雅子　古賀輝洋　後藤宇企子　財津悠子　斉藤美代子　坂口馨子　櫻井美喜子　佐竹早苗　佐藤一江　佐藤進一　佐藤照子　清水悦子　白浜千恵子　鈴木弘子　首藤展子　平笙子　高山知佐子　竹田恵子　武田孝子　田中京子　珍部千鳥　土持秀男・由利子・朱加　綱脇牧子　坪川裕子　富永隆史　友景忍　永江之子　永尾ゆかり　永野沙智子　中村洋子　楢﨑悦子　西井えりな　丹羽道代　納富育代　廣松初美　福井初子　藤本孝子　渕田三輝　前田靖子　松尾智恵子　松永庸子　丸山小より　水本敬子　三野桂子　村田聡子　村西美由紀　室屋芳乃　森川キミエ　山下澄子　山中陽子　山本敬子　山本亮輔　吉田美抄子　LIFE&ART青空・東海林由紀　渡邊真志子

計92名（匿名含む）

（2009年11月1日～2010年1月31日までに募金をして下さった方、ならびに「のぞみ21」雑貨、チェルノブイリ支援コーヒー・紅茶の購入を通じて活動を支援して下さった方です。通信にお名前を紹介することをご許可いただいた方のみ掲載しています。）

★「株式会社カタログハウス」様より、350万円の運営支援カンパをいただきました。心よりお礼申し上げます。被災地を支える事務運営費として有効に活用させていただきます。

編集後記

今年はチェルノブイリ支援運動・九州（チェルノブイリ医療支援ネットワークの前身となる任意団体）を結成して20年、またブレスト検診も10回目となります。これからも多くの方の募金を有意義に活用する支援を続けます。（河）

前号で「のぞみ21」商品カタログを同封した際、たくさんの方々からご注文をいただき、ありがとうございました！　売切れが続出し、大変申し訳ありませんでした。次回の入荷もどうぞお楽しみに！（み）

皆さまからのメッセージ（一部抜粋）

●チェルノブイリの子どもたち、そしてスタッフの皆さんによいクリスマスと新年を。●支援する場を与えていただき、ありがとうございます。●2010年も素晴らしい年となりますように。●幼い娘が成長して生きる世の中が少しでも平和で安心であることを願っています。●ベラルーシの人々の健康回復をいつも願っています。●スタッフの皆様、おすこやかで良い年をお迎え下さい！●少しずつ支援の輪が広がりますように。●ほんの気持ちばかりですが…。応援しています。●マトリョーシカとても可愛いです。大切にします。●ベラルーシの人たちの顔を思い浮かべることが平和につながると信じています。●いつも子どもたちの笑顔に出会える。そんな世の中にしたいです。●いつも同じ姿勢でチェルノブイリのその後と向き合っていらっしゃること、敬服いたします。●のぞみ21の手づくり品にあったかさを感じます。●インド紅茶、とってもおいしく頂いています。無農薬で細やかな支援になってうれしいです。通信、たのしみにしています。●Calling、試練は呼びかける。●放射線被爆地では半永久的に命が脅かされるのに、核兵器や原発は何故増えるのか？●一日も早く、世界中の子どもたちが平和に暮らせますように。●一人の力は小さいですが、少しでもお役に立てばと思います。●早く核はもちろんすべての武器が無くなる世の中にしたいですね。

福祉工房「のぞみ21」手作り雑貨　次回入荷予定のお知らせ

いつも工房「のぞみ21」の運営サポートにご協力くださり、ありがとうございます。
今年1月終わりに、「のぞみ21」へ新たな商品の発注をお願いしました。次回の商品入荷は2010年5月を予定しています。入荷次第、HPやカタログなどで紹介させていただきますので、どうぞお楽しみに！

チェルノブイリ　医療支援　検索

地球にやさしい再生紙と大豆インクを使用しています。